

---

# 愛しい人

流昂貴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛しい人

### 【Nコード】

N 6 1 4 9 D

### 【作者名】

流昂貴

### 【あらすじ】

山獄の甘い話？途中一応十年後だったりします。

（前書き）

山獄で甘いお話

を書こうとして挫折。

（  
）

獄寺。

俺な、お前のこと好きみてえ。

愛しい人

「・・・・・・・・」

獄寺に冒頭のことを言うと、彼は胡散臭そうに俺を見た。

「・・・お前、意味わかって言ってるのか。そういうことは女子にでも言ってるやれ」

「意味はわかってるつもりだぜ？俺は、獄寺が好きなんだって」  
「・・・・・・・・お前と話すと疲れる」

付き合ってもらえない、というように踵を返してしまう。

俺は至って本気なのに、獄寺はそれを信じようとしなない。

冗談、または一時の気の迷いだとか思っているんだろうか。

「・・・・獄寺」

「・・・・・・離せ」

がしつと腕を掴むと、獄寺は振り向きもせず言い放った。  
そこまで嫌われているのか、と苦笑すると、ふと獄寺の耳が赤いこ  
とに気がついた。

「・・・あれ、獄寺・・・耳、赤いぜ？」  
「・・・離せ！」

彼は腕を振って手を外そうとする。

けれども俺は絶対離さないと言わんばかりに手に力を込めた。

だって、獄寺。

耳が赤いってことは、さ。

「・・・やっぱり、赤い」  
「・・・」

半ば強引に振り向かせると、獄寺の顔はやはり真っ赤になっていた。  
それはもう、りんごのように。

それが可愛くて笑うと、笑うなと怒られた。

「・・・あれ？」

目を覚ますと、そこは見慣れた部屋で。  
ああ夢だったのかと一人納得した。

「いつまで寝てんだ、全く・・・」  
「獄寺」

ぶつぶつ言いながらも俺にコーヒーを差し出す彼は、やっぱり前と  
変わってないように思える。

そんなことを思っていると顔がにやけていたのか、獄寺は俺を不審  
そうに見た。

「・・・どんな夢見てたんだ？」

「聞きたい？」

「・・・そんなんでもねえけど」

全く彼は、意地っ張りなところは少しも変わっていない。  
でもまあそこが彼の可愛いところなのだけれど。

「あのな、・・・」

言おうとすると近くに寄ってくる獄寺に、相変わらず素直じゃない  
んだなと笑いそうになる。

そんな彼があまりに可愛かったもんだから、言葉じゃなくて息を耳  
に吹きかけることになったのは、このすぐ後。

（後書き）

甘いのって難しいですね。

（同意を求めてもらう）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6149d/>

---

愛しい人

2010年10月9日16時32分発行